

平成22年度高知南国道路外埋蔵文化財発掘調査業務委託

東野土居遺跡

記者発表及び現地説明会資料



竪穴建物跡から出土した庄内式土器

日時 記者発表 2010年10月22日(金) 11時～12時
現地説明会 2010年10月24日(日) 10時30分～12時
場所 香南市東野土居の東野土居遺跡発掘現場

高知県教育委員会

(財)高知県文化財団埋蔵文化財センター

1. 調査の目的

今回の発掘調査は国土交通省(四国地方整備局土佐国道事務所)が計画している南国安芸道路工事区間内に所在する東野土居遺跡について工事で影響を受ける部分についての事前の発掘調査を実施し、遺跡の内容を記録保存し地域の歴史の復元に役立てようとするものです。

2. 調査対象地・調査面積

香南市野市町土居(約12,500㎡)

3. 東野土居遺跡

高知県教育委員会が昭和61年度に実施した遺跡詳細分布調査によって確認された遺跡です。南国安芸道路の建設に伴って高知県教育委員会が平成20・21年度に実施した試掘確認調査で弥生時代から中世にかけての遺構・遺物が確認されています。

4. 調査体制

調査委託者	国土交通省四国地方整備局
調査主体	高知県教育委員会
調査実施機関	(財)高知県文化財団埋蔵文化財センター

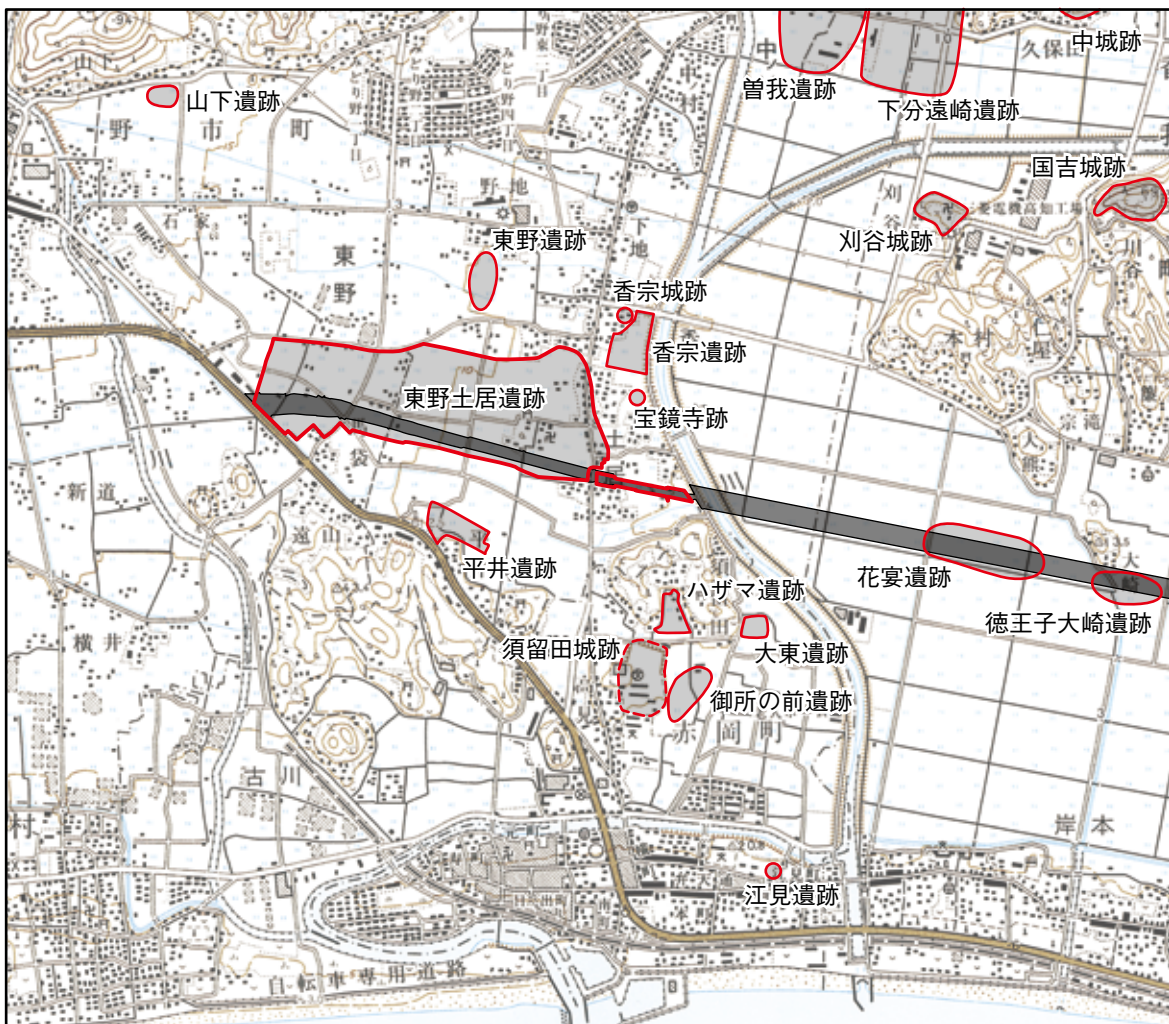


図1 調査区位置図と周辺の遺跡推定範囲(S=1/25,000)

5. 調査期間

平成22年5月6日～平成23年2月18日(予定)

6. 調査結果

(1) 検出遺構

弥生時代～古墳時代: 竪穴建物跡, 土坑, 溝跡, 柱穴など

古代: 掘立柱建物跡, 土坑, 溝跡, 柱穴など

中世: 掘立柱建物跡, 土坑, 溝跡, 柱穴など

(2) 出土遺物

弥生土器(甕, 壺, 鉢)・石器, 土師器(甕, 碗, 高杯), 須恵器(杯身, 杯蓋, 甗, 高杯), 鉄鏃, 土師器(皿, 杯, 甕), 須恵器(皿, 杯, 壺, 甕, 円面硯), 瓦, 土師質土器(皿, 杯, 碗), 東播系須恵器, 貿易陶磁器(青磁, 白磁), 国内産陶器(備前焼), 瓦質土器

7. 調査成果

(1) 弥生時代から古墳時代の集落跡を検出

弥生時代終末・古墳時代初頭と後期古墳時代後期の2つの時期の集落の存在が明らかとなりました。両時代とも竪穴建物跡が密集して建てられていることから、かなり規模の大きな集落であったと考えられます。古墳時代初頭前後の竪穴建物跡には床の一部を高くしたベット状遺構がみられ、床面からは多量の土器が出土しています。その中には庄内式土器とよばれる河内平野から持ち込まれたものもありました。古墳時代後期の竪穴建物跡のいくつかには壁に接してカマドを取り付けた跡が確認され、煮炊きに使用された甕などが出土しています。

これらの集落跡は、現在の東野土居集落のルーツにつながるものと考えられます。



図2 東野土居遺跡検出遺構概略図 弥生・古墳時代(S=1/1000)



IV A-W区完掘状態



IV B-①区完掘状態



IV A-E区 ST3遺物出土状態



IV B-②区 ST24遺物出土状態

(2) 古代の建物跡を検出

調査区では掘立柱建物跡, 土坑, 溝跡, 柱穴等が多数検出しています。IV区全体では掘立柱建物跡を5棟, 調査区を南北に縦断する大溝(幅約2.6m, 深さ約90cm)を検出しました。大溝からは日常的な土器に混ざり円面硯や瓦片が出土しています。寺院か役所的な建物があった可能性があります。当遺跡の約2km北東には官衙関連と考えられる曾我遺跡が存在しており, 曾我遺跡との関連性も考えていかなければならないと思われます。

(3) 中世の屋敷跡を検出

掘立柱建物跡, 土坑, 溝跡, 柱穴等が多数確認されました。出土遺物等から鎌倉～室町時代のものと考えられ, これらの遺構は調査区の西側(IV-A-E)に多く分布しています。中世には西側に屋敷など中心的な施設の存在が考えられます。

9. まとめ

東野土居遺跡の調査は今年度で2年目となり, これまでに弥生時代後期から古墳時代初頭, 古墳時代後期の集落跡, 古代の建物跡や溝跡そして中世の屋敷跡を検出し, 弥生時代後期から中世に至る人々の営みを確認することができました。

野市台地の東側における本格的な調査はこの遺跡が初めてであり, 遺跡の全体像については今後調査が進むにつれて明らかになっていくものと思われますが, この地域の歴史像を考えて行く上で重要な遺跡となってくると考えられます。